

サステナブルスクールの先生に 会いに行こう！

Vol.2

サステナブルスクールには、子どもたちとともに持続可能な未来に向けて行動する先生の存在が欠かせません。学校自体の変革にも先生方の存在が大きく関わっています。そんなサステナブルスクールの先生へ、今回根掘り葉掘りいろんなことを聞いてみました。先生方の原動力はどこからきているのでしょうか？



お名前 近藤 裕志 (コンドウ ヒロシ)
学校名 静岡県立下田高等学校南伊豆分校
学校での役割 農場長

先生になった理由を教えてください。

夢であった青年海外協力隊へ参加すべくアメリカで農業研修をした際、日系2世の40代の同僚に出会いました。彼は、自らのルーツである日本や日本の文化に憧れを持ち、来日することを夢見ていました。当時、若気の至りで日本文化に対して嫌気がさしていたのですが、その話を聞いた私はそんな自分を恥ずかしく思い、海外へ憧れを持つ年代の日本人に、日本文化のよさを伝えたいと思いました。青年海外協力隊参加後、専門家として

生きていくことも考えましたが、帰国した際に30歳近い年齢であったということもあり、日本での社会人としての経験を積もうとしたこと、そしてお世話になった学校で教員として指導いただきたいと思いました。学校は、教員みんなで生徒の成長に向けてタッグを組み、そして生徒の成長を喜び合える職場であると感じたため教員になることを決めました。

静岡県立下田高等学校南伊豆分校とESDとの出会いを教えてください。

長年本校で実施していた園芸保育の今後の方向性について悩んでいたところ、静岡大学の田宮緑教授と出会ったことがきっかけです。

近藤先生とESDとの出会いについても教えてください。

副校長とともにサステナブルスクールの研修会に参加した際、当時サステナブルスクールの担当をされていた文部科学省の方の強烈なパワーと勢いに度肝を抜かれました。また、他校の先生方とお話しさせていただく中で他校の素晴らしさを痛感し打ちのめされ、副校長と



ともに帰りの飯田橋駅から重く長い帰路についたことが今も印象に残っています。その後、研修を重ねていく中でESDとは何かご教授いただくことで理解を深めていくことができました。特に、リチャード先生¹のワークショップで全てが明確に、授業でどう生きていくか理解

¹ リチャード・ダン氏はイギリスのアシュレー小学校の校長で、自然との調和を意識した「ハーモニーの原則」を軸に学校改革をおこなっています。ダン氏は2016年度、2017年度に来日され、ACCU主催のワークショップにてファシリテーターを務めました。

できたことが楽しかったです。

● 近藤先生が日々大切にしていることを教えてください。

生徒のよりよい成長のため、保護者の方より大切な生徒を預かっている学校という組織として、何ができるのか、どうあるべきなのかという考えを前提に、その組織



の一員として目の前の生徒に何ができるのか、生徒の変化を見逃さず関わっていくことを大切にしています。

● 近藤先生の目指す未来はどのような未来ですか？将来どんな社会に生きていきたいですか。

誰もがよりよい将来を夢見て、日々それぞれの立場で、持てる力を発揮している社会に生きていたいと思

います。その延長にみんなの笑顔があふれる社会があればと思っています。

● 「サステナブルスクールの先生に会いに行こう！」を手にされるすべての方々にメッセージをお願いします。

各サステナブルスクールの活動は多岐にわたり、素晴らしいものばかりで、ひょっとすると「うちとはかけ離れ過ぎているかもしれない」と感じられた方もいらっしゃるかもしれません。私自身がそうでした。しかし、どのサステナブルスクールも、各地域における課題や各校の現状を踏まえた上で活動を展開されており、原点は変わらないと、研修会に参加させてもらう度にひしひしと感じます。また、サステナブルスクールへの認定後、新たな活動も開始しましたが、それだけではなくこれまでの活動に価値を見出し、新たな教育的視点を加えることもできました。地域の子どもたちのために尽力されている先生方や地域の方、特に教育現場では、もともとESDという視点を基盤とし職務にあたられているのではないのでしょうか。教員の原点が「子どもたちのために」であるならば、その言葉の意味の中に「将来のために」という言葉も含まれているのではないのでしょうか。現在を大人として生きる私たちは、地域や地球規模の問題に対しての行動を、将来を生きる子どもたちに対してどの程度見せてあげられているのでしょうか。子どもたちにとって身近な大人は、それぞれの立場で各分野の専門家として活躍しています。私たち大人からのメッセージを単発でなく、連続的に子どもへ発信し続けることで何かが変わることを期待します。

私は農業科の教員なのでよく植物の種を蒔きますが、

収穫することを期待して蒔きます。しかし、もしかすると大雨に遭い畑が水に浸かって思うように成長しないかもしれません。病害虫に遭遇するかもしれません。だから、できる限り畑へ足を運び、時には溝を掘って排水を良くしてあげたり、風に負けないよう柱をたててあげたり、肥料をあげたりしています。私は、教育活動にも同じことが言えると考えています。種を植えばなしでは良い収穫が得られるとは限りません。多様な専門性のある人たちの手を借り、継続的に子ども達へ教育活動がなされる必要があると感じるのです。教科の枠を超えて、学校全体で具体的な行動を子どもに伝えていくことが重要です。これからの時代を担う子どもたちのために、まずは大人から変わらなければいけません。私はそう感じ、日々の活動を展開しています。

本校は里山に囲まれ、自然豊かな環境下にあります。2017年度は園児交流「園芸保育」として、里山の竹林が荒廃している様子を園児や高校生に知ってもらい、その改善策として地域の方のお力を借りながら、堆肥を作る活動をしました。私自身、どのような活動になっていくのか不安も抱えていますが、活動をともに展開する仲間とともに、これからの地域を担う子どもたちと地域の方々をつなぐ活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

ESD重点校形成事業開始の背景

国連持続可能な開発のための教育の10年（以下、国連ESDの10年）の最終年となる2014年11月に、日本政府とユネスコの共催により、愛知県名古屋市および岡山県岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開かれました。その会議において、国連ESDの10年の後継目標として「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が発表され、同年第69回国連総会にて採択されました。ユネスコ主導の下、2015年から2019年までの5年間、ESDはこのGAPに基づいて推進されています。

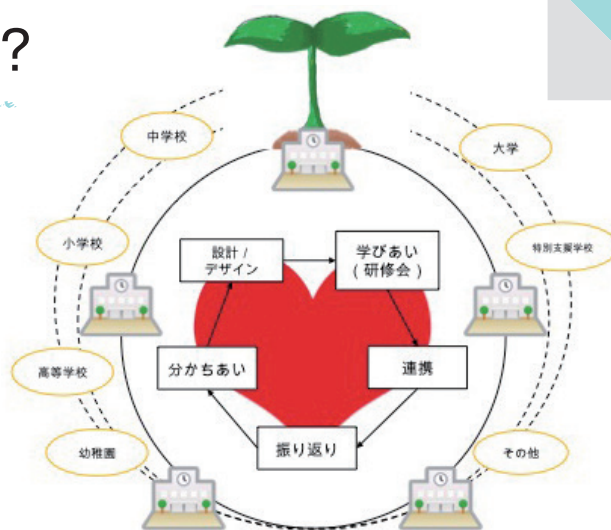
また、国内に目を向けると、日本ユネスコ国内委員会に設置されたESD特別分科会が「国連ESDの10年」の成果と課題を整理し、平成27年8月に「持続可能

な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて」と題する報告書を取りまとめました。報告では、今後のESD推進方策として、ESD普及のための取組と並行してESDを深化させる（実践力を高める）ための取組の強化がうたわれています。学校全体で、また他校や地域との連携も視野に入れて活動を実践し、持続可能な未来の実現に向け、教育を通じて一人ひとりの変容していくことが期待されています。

このような経緯を受け、日本におけるユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、文部科学省より「平成28年度日本/ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、ESD重点校形成事業を実施することとなりました。

ESD重点校形成事業とは？

ESD重点校形成事業は、教育を通じて持続可能な社会を構築するために、実践的な取組を行う意欲のある学校を公募・選定し、その取組を発展および深化させるために必要な支援をする事業です。学びあい（研修会）→連携→振り返り→分かちあい→設計/デザインのサイクルを繰り返すことにより、重点校（以下、サステナブルスクール）に留まらず、ESDの活動を広げつなげていきます。



サステナブルスクール形成の目的

- 本事業の支援を受けて、サステナブルスクールが事業に関わるすべての人に学びをもたらす活動を展開し、自らの思考・行動の変容によって成長すること
- 他のサステナブルスクールの成果を自校の取組に生かし、サステナブルスクール同士も連携しながら多面的な魅力を持つ学校へ発展すること
- サステナブルスクールが本事業の支援を受けてESD

- 実践校として自立し、周辺の他の学校や地域・家庭を先導してESDの深化に寄与すること
- サステナブルスクールの寄与によりESDが教育現場そして地域社会に根付き、持続可能な社会を構築していくこと
- 加えて、その活動を世界へ向けて発信し、国際的に展開していくこと

関連資料のご紹介



「ひと目でわかる ESD 推進事業ガイド」(2017) (日・英)

本冊子は、ACCU がユネスコスクール事務局として実施するESD 推進事業を一冊にまとめたものです。ESD に対して十分な理解があり活動を深化していきたい方、ESD に関心はあるけれどもどのように活動をはじめたらよいか分からない方など ESD に関わっている全ての方が活動を始める第一歩を踏み出すことができるようになる一冊となっています。

この一冊を通して、皆様に出会えることを楽しみにしております。

送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。



「キラリ発進！サステイナブルスクールーホールスクールアプローチで描く未来の学校ー」

(2017) (日)

本冊子は、平成28 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業として文部科学省から委託を受け、2016 年9 月より始動したESD 重点校形成事業と2016 年11 月に開催した国際ワークショップの様子を記した一冊です。

日本では重点校（以下、サステイナブルスクール）としてどのような学校が選ばれ、どのような活動をしているのか。国際的にサステイナブルスクールとしてどうあるべきなのか。イギリスのアシュレー校校長のリチャード・ダン氏をお招きし、持続可能性の「哲学」を様々なバックグラウンドを持つ参加者と分かち合った様子も紹介しています。この一冊を通して、「新しい学び」を感じていただきその学びが全国に広がっていくことを心より願っています。

送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) について

ACCU は、ユネスコ(UNESCO,国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971 年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア・太平洋地域諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行っています。現在、文部科学省より委託を受け、ユネスコスクール事務局としてユネスコスクール加盟時、加盟後の支援をおこなっています。



問い合わせ先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484 東京都新宿区袋町6 (日本出版会館)

電話:03-3269-4559 Fax:03-3269-4510

E-mail: webmaster@accu.or.jp

ACCUホームページ: <http://www.accu.or.jp/jp/index.html>